

- 多様な主体で構成される「あば村運営協議会」を中心に、①小さな拠点の整備、②あば村ブランドの開発・流通、③都市農村交流を行う。「あば村づくり3本の矢」=“ローカル・アバノミクス”
- 地域住民向け事業報告会や活動広報誌の発行・全戸配布などにより、現状と今後の予定について説明を行っている。

あば村運営協議会 組織図



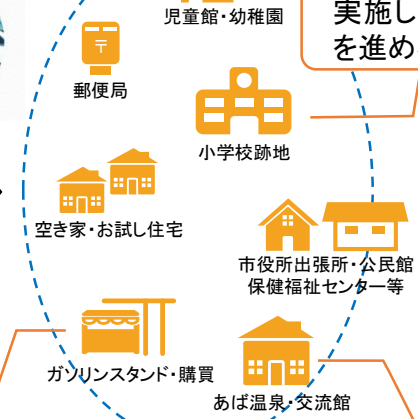
● 公共交通空白地有償運送事業
自宅からバス停までの移動、
地区中心部への移動など高齢
者の移動手段を確保。



● あば村ブランドの開発・流通拠点
廃校になった旧阿波小学校校舎を
農産加工施設として整備。「あば村ブ
ランド」としてパッケージデザインの統
一や認定マークの作成などの取組も
実施し、地域の農産物の6次産業化
を進める。



取組の実施

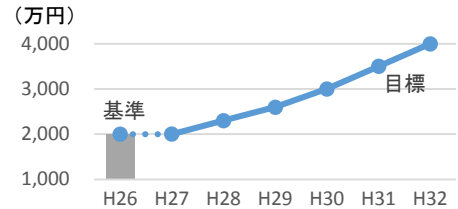


● 地域の生活拠点の維持
JA撤退後のガソリンスタンドを住民出
資の合同会社により運営。地域での燃料
確保体制を維持。

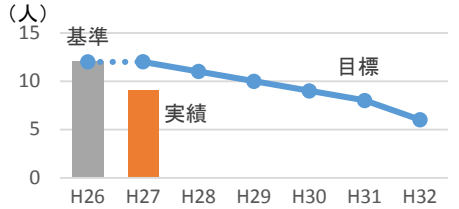
● 地域内外の交流拠点
年間約6万人の利用がある施設を核として、
他の施設とも連携しながら「ふうど&エコツ
リズム」の取組を実施。地域おこし協力隊が
主導して交流体験等の企画も実施している。

主な目標・成果

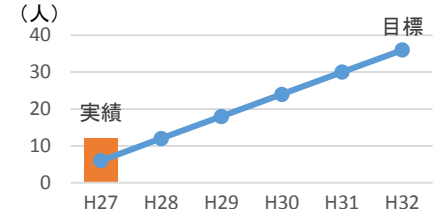
① 阿波地区の農産加工販売額



② 阿波地区の人口減少数



③ 阿波地区への転入者数(累計)



(写真出典：あば村運営協議会ホームページ)

活用した主な国の支援

- 過疎地域等自立活性化推進交付金 (総務省)